

のうはく通信



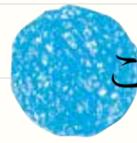
創刊号

胎内市の子どもを 胎内市で育てる取り組み



表紙の人

胎内市坪穴在住 今井 一郎さん
幸子さん



これぞ農家の料理

●ナスの揚げ浸し

- ①ナスにカタクリをつけて揚げて冷やす。
- ②砂糖、醤油、みりんでやや薄味のだしを作り、さらにカタクリを加えとろみをつける。
- ③揚げたナスをつける。
- ④お好みで生姜を入れる。

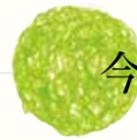


ナスの揚げ浸し



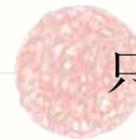
ナス漬

『これを作ったとき、ナス嫌いな子どももたくさん食べました。翌朝、「えー、ないのー」と残念がられました。』本当に美味しかったですね。その他、ナス漬やアスパラのベーコン巻きなど、畑で採れた野菜を献立に加えているそうです。



今井さんのお宅の畑

インタビューにおじゃました11月下旬には、大きくなった白菜と野沢菜、それとネズミダイコンがありました。ネズミダイコンは辛大根とも呼ばれ、辛味が強く、そばなどの薬味として利用されるそうです。



只今体験学習中

●空き缶でご飯炊き

- ①各自でお米（0.5～0.8合）と350mlの空き缶を用意する（缶の上部は缶切りにてくり抜く）。
- ②缶の中でスプーンを使い米をとぐ。
- ③アルミ箔で蓋をする。
- ④直火にかける。沸騰するとアルミ箔が浮いてくるので、それを抑えるために石ころなどを置く。（20～30分程度）
- ⑤たまに中をのぞき、炊けているようなら火から下ろし、逆さにして15分程度蒸らす。
- ⑥スプーンでかき出して完成。カレーなど、お好みで食べる。



編集後記

新年、あけましておめでとうございます。創刊号はいかがでしたでしょうか。胎内市のふるさと体験学習を盛り上げるため、適宜発行していく予定です。次回をお楽しみに。

もりたろう

ご意見、お問い合わせはこちらまでお願い致します。

胎内市農林水産課 農村交流係
胎内型ツーリズム推進協議会301人会事務局
☎0254-48-3321 <http://tainai301.seesaa.net/>

事務局よりご案内

今年の七月十九日～二十一日、東京・江戸川区の中学二年生が林間学校で来訪することが決定しました。

については受入民家を随時募集しております。興味のある方はお気軽に事務局までお問い合わせください。またご要望があればいつでも説明に伺います。

事務局

ふるさと体験学習

農家の声を

お届けします



調理体験

楽しい調理体験
大人以上に食べますよ

食事には子どもたちが好きな肉料理を出すことが多いそうです。『鶏のから揚げや煮込みハンバーグを作ります。ナスやトマトがきらいな子が多いけど、自分で採ると食べますよ。』また、子どもたちには海苔巻きが好評で、自分で食べる分を自分で作ってもらっているそうです。『納豆やきゅうりなどを巻いて、思い思いの海苔巻きを作ってもらいます。いろいろな太さ形の海苔巻きが出来ますが、三本も四本も作って、大人以上に食べますよ。自分で作るとおいしいといえますね。』食事を作ることも、この体験の目的のひとつとなっています。教わった料理を、子どもが自宅で作ってくれるようになったとの保護者の声もありました。

最後に、メッセージをお聞きしました。『最近では農家でない方も受け入れをはじめたと聞いています。でも自家用の畑だけでは作業もあまりないかもしれない。そんなときはウチまで連れてきてもらえば作業はいくらでもあるからね。それと、受け入れは心配な面

みなさんへのメッセージ



青い空と緑の大地

田んぼの保全に貢献!

もあるだろうけど楽しみもある。自分の孫と一緒にだね。』百姓坪穴として体験農業も企画している今井さんは、このようにふるさと体験学習を後押ししてくれています。受入農家が増えてくれるとうれしいですね。

大だすかり!



収穫体験

胎内市ふるさと体験学習とは?

胎内市では、胎内市の宝である子ども達を「胎内市でしっかり育てる」という考え方のもと、学校、行政、地域が一体となり、市内全小学5年生を対象に『ふるさと体験学習』を平成20年度から実施しています。

この事業は、市外からの教育体験旅行を誘致するにあたり、まずは市内の学校、市民が本市の持つ環境や施設、歴史、人材の素晴らしさを認識することを心がけて取り組みを進めています。



平成20年度より行われている、小学5年生を対象としたふるさと体験学習。保護者からも『子どもの成長の機会としてとても大切』との声も聞かれます。そんなふるさと体験学習に受入農家の皆さんはどのように取り組んでいらっしゃるのか、実際に受入をしておられる方々の生の声をお届けします。



農村生活体験の様子

八十五歳のおばあさんも
子どもたちがくると
元気が出る

創刊号は、胎内市坪穴在住の今井さん夫妻にインタビューしました。今井さんは農泊がはじまった当初より受け入れていらっしやいます。『今年は二つの学校を受け入れたな。元気の良い男の子たちだったね。』四人の子どもを受け入れることがほとんど話す今井さん。胎内市によると、年間の受け入れ件数は二〜三件というところが多いとのこと。『子どもたちにはナスの花芽取りや追肥、箱詰めなんかを手伝ってもらったんだよね。仕事はいつもあるんだわ。』今井さんはお米のほか、十全ナスやユリの球根などを出荷しています。そのほか自家用としてジャガイモやアスパラガスなど、様々な野菜を栽培しているそうです。『長い時間、同じ仕事をさせると飽きるの、いろいろなことを手伝ってもらっているよ。ケガだけさせないように気をつけてい

るね。』子どもたちのことを思い、工夫している様子が伝わりました。夜はホタルを見に連れて行くと言っている今井さん。『ゲンジだがヘイケだかは、わがらねけどね(笑)』自然豊かな坪穴には多くのホタルがいるそうです。

毎年受け入れをしている今井さんですが、身内のご不幸で受け入れが出来なかった年もあるとのこと。また、稲刈りなどで本当に忙しい時期は断っているとおっしゃっていました。皆さんそれぞれに都合があるので、無理なく受け入れていくようです。でも『八十五歳の少し耳が遠くなったおばあさんも、子どもたちがくると元気が出る。一生懸命話をするんだよね。』と今井さん。みんなが子どもたちから元気をもらっているとおっしゃっていました。